



大阪府指定文化財 奈加美神社本殿 慶長15年（1610）造営

お朔日参りのすすめ

ついたちまい



祝祭日は国旗「日の丸」を揚げましょう

白地に赤く 日の丸そめて

ああ美しい 日本の旗は

（日本の唱歌より）

第19号

平成28年
7月15日発行

奈加美神社

泉佐野市中庄 834
電話 462-7080

奈加美神社では毎月お朔日（一日・ついたち）の午前八時より月次祭（つきなみさい）を執り行っております。月始めのお朔日参りには、早朝より多くの氏子崇敬者の方々がお越しになります。

「ついたち」の語源は「つきたち（月立ち）」と言われていました。現在の暦は太陽暦ですが、明治時代以前は旧暦・太陰暦が用いられていました。太陰暦は月の満ち欠けにより月日を数えるので、新月が月の始め、「つきたち（月立ち）」すなわち「ついたち」となります。

月始めは一日に立ち返るように、人の心もまた新たにして清々しくスタートを切りたいものです。まずは地域の守り神である氏神さまにお参り頂き、「先月はお守り下さってありがとうございますございました。今月も家族共々お守りお導き下さい。宜しくお願ひします。」と、感謝と祈りを捧げましょう。

ご参拝の皆さまへのおさがりとして、神さまにお供えした「お塩」を小袋に入れてご用意しております。約五十袋と数に限りはありますが、お一人一袋ご自由にお持ち帰り頂いております。神さまにお供えしたありがたいお塩ですので、料理に使って召し上がって頂

くか、土地や家屋のお清めにお使い下さい。また来月八月一日からは、神さまにお供えしたありがたい「お米」のおさがりを「ポン菓子」に加工してご用意いたしますので、子供さんやお孫さんにお持ち帰り下さい。ポン菓子を通じて、神さまのお話や神社にまつわるお話を月替わりでお知らせできるような考えております。

月次祭には上の写真のように、お米・お酒・お塩・お水と共に地元で採れた泉州産の旬の野菜や果物をご神前にお供えします。地場産の旬のお供え物が神さまへの何よりのご馳走です。神事では皇室の弥栄、日本国の隆昌、氏子各位の身心健全、氏子地域の平安と繁栄をお祈り申し上げます。

社務の都合により時刻を変更する場合がございますが、毎月午前八時より月次祭を執り行っております。拝殿内でのご参列も可能ですのでお申し出下さい。どうぞ氏神さまで清々しい月始めをお迎え下さい。

また月次祭に際して、神さまへの農産物や御神酒などの奉献品の受付も行っておりますので、宜しくお願ひ申し上げます。

神楽「浦安の舞」



昭和初期・奈加美神社神職
鍛冶豊吉氏のご令嬢



今年の春祭りにて
北岡宮司の三女

昭和天皇御製(和歌)

天地の神にぞ祈る 朝なぎの
海のごとくに 波たたぬ世を

「浦安の舞」は昭和十五年、皇紀二六〇〇年を奉祝し、昭和天皇御製(和歌)を歌詞として頂き、作曲された神楽です。全国の神社で奉奏され、今に受け継がれています。

「浦安」とは心の安らかな、という意味で、日本の美称として古来より「浦安の国」と称されています。昭和天皇が天神地祇(てんしんちぎ：天つ神・国つ神)に平和の祈りを込めてお詠みになった御製を頂く平和の舞です。

右上の写真は数年前にご本人よりお手紙と共に送って頂いたものです。当時この神楽を舞うために、幼いながら大阪市内までお稽古に通い、練習されたそうです。右手に持っているものは檜扇(ひおうぎ)という桧木製の扇です。菊の花簪(はなかんざし)を着け、大和錦の装束を身にまとい、とても可愛らしいですね。

奈加美神社では、春・秋の大祭や神前結婚式に神楽を奉奏しております。

ちびっこ巫女さん募集



奈加美神社でお神楽を習いませんか？

小学校中高学年のお子さんで興味のある方はお気軽にお問い合わせ下さい。

中庄 若宮神社

当社は明治四十二年に中庄・上瓦屋・湊の字々に祀られていた神社が合祀され、奈加美神社と改称されましたが、その前年の明治四十一年には、中庄において中庄と湊の字々の神社が大宮神社(現奈加美神社)に合祀され、中庄神社と改められています。一方上瓦屋においても明治四十一年、上瓦屋の字々の神社が佐野川の稲荷神社に合祀されています。そして翌明治四十二年、中庄神社に稲荷神社が合祀され、現在の奈加美神社が誕生しました。

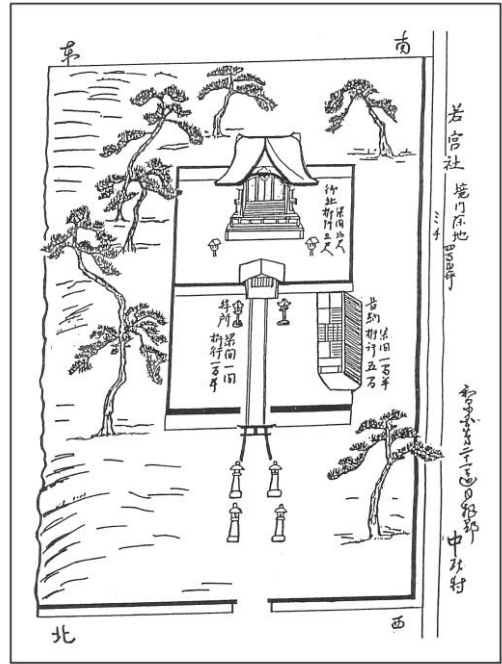
今回は中庄の字若宮に鎮座した若宮神社を紹介いたします。若宮神社の創建年代は詳らかではありませんが、元和七年(一六二一)に大宮神社の御分霊を頂き、撰社として建立されたという説と、少し後の寛永二年(一六二五)に建立されたという説があります。

若宮神社のご祭神は大宮神社同様、誉田別命(ほむたわけのみこと)・応神天皇・比売命(ひめのみこと)・応神天皇(のち)・息長帯姫命(おきなながたらしひめのみこと)・応神天皇の母・神功皇后)。

鎮座地は字若宮、府道62号線(泉佐野打田線)と中庄会館前を通る市道泉佐野熊取線が合流する、蓮池交差点付近の田んぼのある辺りです。今でもその名残で付近の田んぼは「若宮」と呼ばれています。

境内面積は四七四坪、氏子は明治四一年

の合祀時点で四十一戸となっており、中庄の上出地区の氏神として祀られていました。



右の絵図は明治初期頃のもので、社殿の周りには瑞垣（みずがき）もしくは土塀が施され、松の木に囲まれています。社殿は流造りで、屋根は檜皮葺、千鳥破風・唐破風が設けられています。イメージとしては現在の奈加美神社の本殿を小型化したようなものを想像して頂ければわかりやすいかと思えます。

若宮神社も伊勢の神宮にならない、二十一年に一度社殿の改修が行われており、今も当時の棟札が奈加美神社に現存します。棟札は嘉永元年（一八四八）のものから四枚残っています。

下の棟札の写真は右から古い順に並び、上段が表面、下段が裏面となります。実際の大きさはそれぞれ異なりますが、保存状態は良好で墨書もはっきり読み取れます。

右から二枚の江戸時代のものには神仏習

嘉永元年（一八四八）



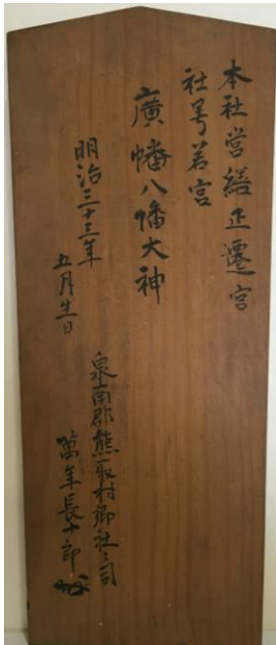
安政七年（一八六〇）



明治十三年（一八八〇）



明治三十三年（一九〇〇）



合の影響で文字の頭に梵字があり、佐野遍照寺の名が見えます。また下の方には「神主」・「時の神主」とあり名前が記されていますが、

武野仁左衛門 菅経正遷宮



氏子の中から年番で神主の役を務め、奉仕にあたったと考えられます。一方、左の二枚の明治時代のものになると、

神仏分離のため仏教色は取り除かれ、神主は熊取村郷社（大森神社）社司・万年長十郎が奉仕にあたっています。

奈加美神社には、これらの棟札以外にも大宮神社の棟札が多数残っており、大阪府有形文化財の指定を受けています。大宮神社の明治三十三年の社殿改修の棟札にも、遷宮長・万年長十郎、神主・竹蔵音治と記されています。竹蔵音治氏は現在の神社総代長・竹蔵貞夫氏の祖父にあたる方です。大宮神社も若宮神社同様、氏子が年番で神主を務めたと考えられ、当時常駐の神主が不在であったため、大森神社の神主を臨時に迎えたのではないかと思います。

左の棟札は安政七年のものを見やすく作図したのですが、この「なかみの郷」は奈加美神社のホームページでもご覧いただけます。写真や画像を拡大して見て頂くことが可能ですので、興味のある方は是非ご覧下さい。

安政七庚申歳 佐野 遍照寺
 奉上遷宮若社大明神氏子繁昌祈攸
 二月二十五日 常寛法印

時ノ神主 幸八 仁左衛門 吉兵衛 仙助 宇兵衛 政右衛門
 此六軒年寄
 世話人 徳右衛門 政右衛門 文蔵 治郎左衛門 甚七 友八

安産戌の日まいり



奈加美神社に伝わる大絵馬
 円山応挙の門弟により描かれたもので、神功皇后と応神天皇を抱く武内宿禰。

当社の主祭神は応神天皇（八幡さま）で、配祭神には母君の神功皇后がお祀りされております。古事記によると約一八〇〇年前、神功皇后は朝鮮半島に出征した際、お腹に応神天皇を身ごもっており、その時に石を帯の中に巻き付け、帰還後に無事お産みになったことが記されています。このことから神功皇后は安産の神として崇められ、岩田帯の起源にもなったと言われています。

安産祈願は一般的に妊娠五ヶ月の戌の日にお祓いを受け、岩田帯を着帯します。戌の日にお参りするのには、犬が多産であり安産であることに因みます。

目出度く子宝に恵まれた際には、戌の日の安産祈願にお参り下さい。安産御守、岩田帯と共に、普段でも簡易にお使い頂ける腹巻型の腹帯もお授けしております。

平成28年 安産戌の日表

6月	9日(木) 21日(火)
7月	3日(日) 15日(金) 27日(水)
8月	8日(月) 20日(土)
9月	1日(木) 13日(火) 25日(日)
10月	7日(金) 19日(水) 31日(月)
11月	12日(土) 24日(木)
12月	6日(火) 18日(日) 30日(金)



ご祈祷のご案内

お宮参り・安産祈願・七五三厄除け・車のお祓い・地鎮祭住宅入居のお祓い、各種お祓い神道家葬祭・霊祭、神棚の相談等も受付致しておりますお電話にてお問合わせ下さい

公式ホームページ開設
<http://www.nakami.org>